

## トピックス

## 臨床研究のための、ポストグラデュエイトについて

奥羽大学歯学部歯科補綴学講座(冠橋義歯学) 西本 秀平

歯科医師免許を取得して、5年。私はラッキーなことに、多くの素晴らしい先生方に出会うことが出来た。一般的な歯科医師の時間軸は、歯科医師免許を取得し、各施設で臨床研修を行い、1年たてば、独り立ち。各就職先で院長や先輩に教わりながら、献身をしていく。私も例に漏れず、その時間軸で動こうと思っていた。

遡ること5年前、私は奥羽大学で臨床研修を行っていた。私のファーストメンターは、歯科医療に対し飽くなき追求心を持っており、歯科に対し、フワッとした心構えでいた私の甘さを容赦なく、叱咤していただけた。歯科医療の厳しさを肌で感じた。研修医にも慣れてきた7月。衝撃的な出会いをする。奥羽大学同窓会学術部の主催する、卒業研修プログラムが東京で開催された。講師は『山崎長郎先生』であった。当時の私は、大学の中が精一杯で、有名な先生や、その症例などには、なんの興味も無かった。そんな真っ白な状態で出会った『山崎長郎先生』は、ものすごい衝撃であった。症例の内容や、いかに凄いかなんていうのは一切分からなかったが、『なんか凄くて、全然違う!』そう思ったのは確かである。その衝撃を引きずりながら、冠橋義歯学分野に入局し、大学での診療を行っていた。今まで興味の無かった歯科雑誌を読みあさり、自分の診療を目の当たりにしてヘコみ、日に日にその遠く険しい道が、もっと遠く遠く、険しく険しい道であることを実感していった。

歯科医師3年目、思い切ってSJCDの扉を叩くことにした。1年間の研修と、症例発表を行うのであるが、全てにおいて知らない事、あやふやなままであった事、がエビデンスとともに押し寄せてくる。たった一本のプロビジョナルの調整も満足に出来ない。ましてや支台歯形成なんて、もってのほかである。(未だに出来ない。) そんな状態でも、毎月習った事を持ち帰り、見よう見まねで

治療を行い、写真を残して症例を作り上げていった。内容としては未熟で、患者様には申し訳ないが、自分として出来る最高の事をやらせていただいたつもりである。そして、症例を作り上げていくという行為、そしてそれを人に見ていただくという心構えが、私を歯医者として、少し大人にしてくれたと思う。SJCDには、同窓会学術部のメンバーで、郡山で開業なさってる先生と通わせていただいた。講師陣も名だたる先生ばかり。夏休み等を利用して、講師の先生の診療を見学させていただきにも行った。同年代の受講生の先生とも未だに情報交換や、治療の相談をさせていただいている。そんな折、私も同窓会学術に参加させていただく事が出来た。多くの優秀な先輩方に囲まれながら、勉強をさせていただいている。最近のトピックスとしては、5-D JAPANの、石川先生、船戸先生の講義を聞かせていただけた。さらに、郡山の開業医の先生方で行っているスタディーグループの勉強会に、同じく5-D JAPANの福西先生をお招きし、勉強会を行った。どの勉強会に行っても、自分のレベルを最高の位置に高めるのは当たり前であり、それが患者様への歯科医師としての努めであると、改めて思い知らされる。歯科医療は、患者様と歯科医師の閉ざされた空間ゆえに、少しの甘さや言い訳が生まれやすいと思う。自分も、未だにそういう時があり、自己嫌悪に陥る。歯医者として5年目を迎え、SJCDのマスターコースにも行かせていただいた。まだまだレギュラーコースの内容もろくに出来ない私だが、一生続けていく仕事として、深さをよりいっそう感じている。色んな歯科治療があっただけのべきだし、治療を取り巻く環境も、日に日に変わっていくであろう。その都度、自分の出来る最高の治療を目指し、患者様に提供させて頂く。そんな治療が出来るように、アンテナは高く、常に練習と実践を行い、日々『何故』を追求していきたい。